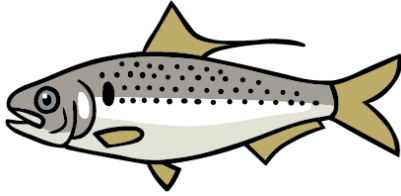


コノシロ（東京湾）



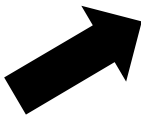
- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は4~7月で、産卵場は当初は東京湾の湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

資源評価

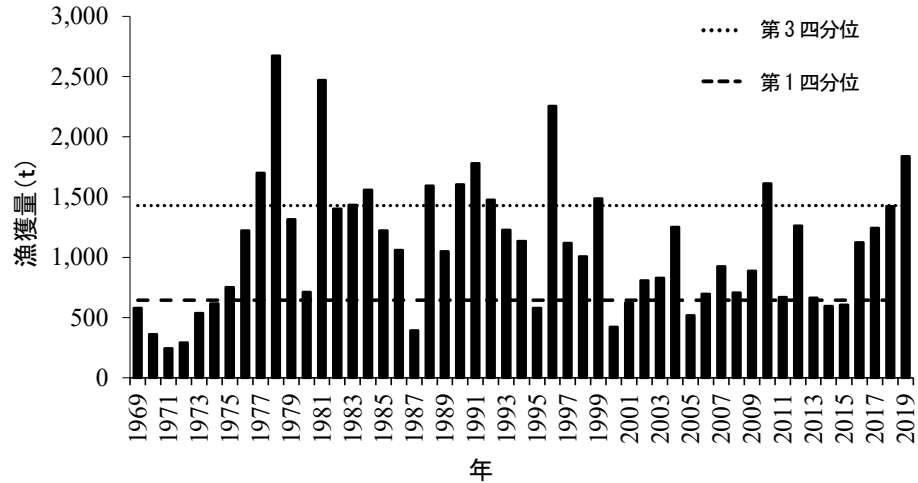
水準：高位



動向：増加



漁獲量



東京湾におけるコノシロ漁獲量の経年変化

2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

東京湾におけるコノシロの漁獲量は年変動が大きく、1978年に2,674tを記録したが、その後、増減を繰り返している。2013~2015年は600t前後で推移した後、増加傾向となり、2019年は1,838tに増加した。

資源評価の判断

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

- ・ 資源水準及び動向は、1969年以降の漁獲量で判断した。
- ・ 長期的に大きく変動する傾向にあるが、2019年の資源水準は過去51年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・小型まき網で冬期の休漁期間の設定など、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

備考

- ・ 東京湾A漁協における中・小型まき網による2020年の漁獲量は、データが得られている2004年以降で最も多かった2019年を下回るものの、2018年を大きく上回っている。このことから、資源水準は2020年も高い水準を維持すると見込まれる。